

アイビック食品と味の素 北海道野菜「応援団」結成

2022/3/1 19:20 | 日本経済新聞 電子版



アイビック食品の牧野克彦社長（左）と北海道味の素の松本征之社長（中央）、トリプルワンの伊藤翔太社長（右、1日、札幌市）

だし・たれ製造のアイビック食品（札幌市）と味の素グループの北海道味の素（同）、広告代理店のトリプルワン（同）の3社は1日、北海道内の野菜消費促進を目指し、「『ラブベジ』北海道YASAI応援団。」を設立した。味の素の調味料を使った野菜のレシピの提案や規格外野菜を素材にした商品を開発する。

一度に70グラム以上の野菜を摂取できる副菜や汁物のメニューを掲載したパンフレットをスーパーで配布したり、ホームページで公開したりする。スーパーの野菜売り場で販促ボードも設置する。

アイビック食品はトリプルワンとフードロスに関するパネル展などを21年10月に開催している。今後、規格外の農作物を使った商品開発や、飲食店などとの連携を進める。

厚生労働省が推奨する成人1日当たりの野菜摂取量目標350グラム以上に対して、北海道は約280グラムと目標に届いていない。アイビック食品の牧野克彦社長は「北海道内の健康維持の促進に少しでも寄与できれば」と期待した。トリプルワンの伊藤翔太社長も「野菜の旬を知ってもらい、北海道内の野菜の地産地消が進んでほしい」と話した。